

令和3年度入学 学校推薦型選抜（一般、専門高校・総合学科）試験問題の出典
社会福祉学部

| 種別 | 大問番号 | 著者名 | 著作物名 | 書名等 | 版元 |
|-----|------|-------|--------------------|---|-----|
| 小論文 | — | 宮口 幸治 | ケーキの切れない 非行少年たち | 新潮社, 2019年より pp.107-114 宮口幸治著『ケーキの切 れない非行少年たち』新 潮新書刊 | 新潮社 |

社会福祉学部

小 論 文 (90分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、2ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず**黒鉛筆**（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 100 点)

周囲からみて理解するのが難しい、そういった言動をする人たちは、世間ではいったいどのくらいの割合でいるのでしょうか。

現在知的障害者の定義はおおよそ IQ^(注1) が 70 未満で社会性に障害があることとなっています。この定義であれば、おおよそ 2% が知的障害に該当することになります。しかし、1950 年代の「IQ85 未満」を適用すると、16% ということになります。16% から 2% を引くと、IQ70~84 のかつての軽度知的障害者は 14% もいた、という計算になります。もちろん最新の DSM-5^(注2) による知的障害の診断基準では IQ の値がなくなり、今では全く当てはまりませんが、この世の中で普通に生活していく上で、IQ が 100 ないとなかなかしんどいと言われていています。IQ85 未満となると相当なしんどさを感じているかもしれません。

しかし、彼らは困っていても自分からなかなか支援を求めることはしません。公的に障害を持っていると認定されるわけでもありません。だから、支援につながることは少なく、仕事を転々としたり、続かなかったり、引きこもったり、ちょっとした問題に巻き込まれたり、生きにくさにつながる可能性もあります。

(中 略)

知的なハンディをもった人たちは、普段生活している限りではほとんど健常の人たちと見分けがつかえません。特に、軽度知的障害や境界知能^(注3)をもった人たちは、通常の日常会話も普通にできるため、どこに障害があるのだろうと首をかしげたくなることもあります。

違いが出るのは、何か困ったことが生じた場合なのです。いつもやっていることならいいのですが、いつもと違ったことや初めての場面に遭遇すると、どう対応していいか分からず思考が固まってしまうことがあります。柔軟に対応するということが苦手なのです。

例えば、いつも乗っている電車が人身事故で止まってしまった場合、違うルートを柔軟に探すといったことが難しくなります。パニック状態になる、同じ方法にこだわる、人に言われたとおりに流されてしまう、といったことになります。困ったことがあった際に、柔軟な思考ができるというのはある意味での賢さですが、彼らはそうした思考が苦手です。逆に言えば、何も困ったことが起こっていない場合、知的なハンディをもった人たちは普通の人と見分けがつきにくく、そのため気づかれず、忘れられてしまうのです。

知的障害には大きく軽度、中等度、重度、最重度といった区分がなされています。このうち軽度が 8 割以上を占めていますので、知的障害というと概して軽度と考えてもいいでしょう。しかし、軽度の知的障害は、中等度や重度よりも支援をそれほどしなくてもいいという訳ではないのです。逆に軽度であれば健常人と見分けがつきにくく、当然放っておかれることが増えます。軽度といった言葉から支援もあまり必要でないと誤解され、また本人も普通を装い、支援を拒否したりするため、支援を受ける機会を逃してしまいます。

しかし、一方で日常生活では社会から「厄介な人たち」と攻撃されたり、搾取されたりと、さまざまな困難に直面してしまいがちです。そのため場合によっては意図せずとも反社会的な行動に巻き込まれてしま

う可能性もあるのです。私が勤務していた少年院ではこういった少年たちを数多くみてきました。

(中 略)

障害者は支援が必要な存在です。彼らを守るために支援者は日々様々な工夫をしています。

障害者は傷つきやすい存在です。成功体験が少ないため自信ももちにくいのです。

(宮口幸治『ケーキの切れない非行少年たち』, 新潮社, 2019年, pp.107-114より, 一部改変)

(注1) IQ: 知能指数 (Intelligence Quotient) のこと。平均値を 100 と定め、数値が高いほど知能が高いことをあらわしている

(注2) DSM-5: アメリカ精神医学会が出版している「精神疾患の診断・統計マニュアル (Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders) 第5版」のこと

(注3) 境界知能: 明らかな知的障害とはいえ、環境を選べば、自立して社会生活ができると考えられるが、状況によっては理解と支援が必要なレベルの知能のこと

問1 軽度の知的障害者が周囲から気づかれにくい理由とはなにか、本文の内容を踏まえて、100字以上120字以内で説明しなさい。

問2 本文では軽度の知的障害者のことが一例として取り上げられているが、このような気づかれにくい人を支援につなげていくにはどうしたらよいか、あなたの考えを600字以上800字以内で述べなさい。その際、あなたの提案のメリット、デメリットも含めて述べなさい。